



写真-31 エッジカット



写真-32 除根処理

用日程によって前後することになる。ただし、これ以上遅くなると、11月以降の一般利用に耐えることができなくなるので、前倒しになることが多い。オーバーシード後の初刈(写真-28)は、ティフトンの伸びもあることから7～10日目くらいが目安である。

6) その他

マツダスタジアムでは、ピッチャーマウンド周囲から塁間までの勾配をゼロとしている。これは、マウンドを高くすることと内野ゴロの処理がスムーズにできるようにするためである。このため、ダイヤモンドの芝生は毎年張り替えて平坦性を確保している(写真-29)。

また、芝生端部はクレイ舗装と接しているため、土が流入してしまい劣化

が激しい。この部分もシーズンオフに張り替えている(写真-30)。逆に、芝生がクレイ舗装部へ侵入して境界部のラインが乱れて美観が低下する。このため、月1回の頻度でエッジ処理の作業(写真-31, 32)を実施する必要がある。

4. おわりに

プロ野球の地上波放送が減り、オリックスバッファローズも神戸での試合が少なくなったため、メディアを通じて、天然芝球場で行われるプロ野球の試合を目にすることが少なくなってしまった。しかしながら、天然の芝生、土の上で行われるゲームの迫力、楽し

さは格別である。また、今シーズンからは、東北楽天ゴールデンイーグルスのホームスタジアムである楽天Koboスタジアム宮城が内外野天然芝の球場に改修された。あちらは寒地型芝を使用しているが、若い管理スタッフが熱心に芝生を育てており、ペナントレース開始が楽しみである。ファンならずとも、一度は球場を訪れていただければ幸いである。

以上、マツダスタジアムの芝生管理の概要について説明させていただいた。このような機会を与えてくれた「植調」誌の方々に感謝し、お礼とともに結びの言葉としたい。



雌日芝・雌陽皺(メヒシバ)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

イネ科メヒシバ属の夏生一年生草本。さほど大きくはなく、畑地、畦畔、道端、空き地、庭先、樹園地、芝地など、どこにでもあるごく普通のイネ科の雑草である。裸地では、幼植物のときから細い茎が地上を這うかあるいは斜上して、節から根を下ろし四方へ広がる。立ち上がった茎の先に放射状の細い穂を伸ばす。

弥生時代の遺跡からも種子が出土するという本種であるが、食用になるわけでもなく、薬になるものでもない、色鮮やかな花をつけるわけでもない。だからであろうか、この草種に、古の人たちはあまり見向きしなかったようである。万葉集にはイネ科の雑草とも思われる「芝草」を詠んだ歌が2首あるのみ。「芝草」はチカラシバのことだともいわれている。

たち変り 古き都となりぬれば 道の芝草(しばくさ) 長く生ひにけり(第6巻)

畳薦 へだて編む数 通はさば 道の芝草(しばくさ) 生(お)ひずあらしを(第11巻)

前の歌では、平安遷都に伴って奈良の都は人が少なく

なり、道にはイネ科の草が生い茂るほど荒れてしまったと歌い、後の歌では、畳薦を編むように何度も、貴方が通ってくれば道の「芝草」も生えることがないのですよ、と歌う。

メヒシバは、存外踏みつけに弱く、踏まれると細い茎が折れる。折れると、その先の節からまた新しい株として外へ外へと広がって行く。万葉の乙女が歌うように、貴方が足しげく通ってくれたなら、道の真ん中まで生えてしまうことはないのである。

この「芝草」がメヒシバの名をもらうのはずっと後になってからである。しかし、名をもらってからでも、人からは「どこにでもある雑草」としてしか見られず、メヒシバを詠んだ歌はほとんどない。明治から大正期の女流歌人三ヶ島霞子(みかじまよしこ)が、名をもらったメヒシバを詠った。

朝霧にぬれたわみたる夏草の めひじはの穂のほのかにそよぐ

めひじは(雌陽皺)はメヒシバの別名である。